

アードマン・アニメーションズ  
ソニー・ピクチャーズ・アニメーション

御社が制作された「The Pirates! Band of Misfits」の予告編を拝見し、下記の2点、ハンセン病についての誤った表現と映像があることを知りました。WHO（世界保健機関）ハンセン病制圧特別大使および日本国政府ハンセン病人権啓発大使として遺憾の意を表明すると同時に、該当箇所の修正または削除を求めます。

- 1) 該当场面で”leper’s boat”という名称で使用されている“leper”という表現は、国連人権理事会でも差別用語として指摘され、国連決議に付随する「原則とガイドライン」でその排除が求められています。
- 2) ハンセン病患者と思われる人物の腕がとれるという場面は、事実上ありえない不正確な表現であります。このようにハンセン病に対する誤解をあらためて強調することによって—さらに悪いことには、ハンセン病を面白半分に扱うことによって—多くのハンセン病患者と回復者が今なお苦しんでいる差別をさらに助長する結果を招く恐れがあります。

今日、ハンセン病は治る病気です。治療はWHOが配布している薬によって、必要とする全てのひとに無料で提供されています。早期の発見と適切な治療が完治のための鍵といえます。しかし、長い歴史を通して存在してきたハンセン病に伴う社会的烙印のために、世界中の患者・回復者そしてその家族が社会の片隅に追いやられて生きることを余議なくされています。これにより、患者が治療を受けることをためらい、結果的に重度の障害が残ってしまうこともあります。実際、ハンセン病に伴う障害を抱えて生きている人々は今日300万人にのぼります。The Pirates! 予告編の該当场面のようなハンセン病の症状の誤った描写は大きな誤解の要因となり、当事者の生活に悲劇的な結果をもたらす恐れがあります。

この30年間で、世界中の約1600万人の人々がハンセン病から治癒しました。新規患者数は減少しており、現在では年間25万人以下になっています。にもかかわらず、社会的烙印と差別は根深く残っており、そのことが非常に深刻だからこそ、国連総会はこの問題に特別な注意を求める決議を2010年12月に192カ国の賛同を得て採択しました。

今月末、7年目を迎える、ハンセン病患者・回復者に対する社会的烙印と差別をなくすための「グローバル・アピール」がブラジルのサンパウロで発表されます。これには、世界医師会とその加盟国医師会の賛同を得ており、彼らはハンセン病への偏見と闘い、その病気に対する正しい情報を広めることに強い決意を表明しています。ハンセン病へのイメージを変えることは簡単なことではありません。ましてや、この病気に対する好ましくない表現によって—特に、世界中の何百万人の聴衆によって鑑賞される家族向け映画の中でこのイメージを強調することにより—人々の正確な理解を得ることはさらに難しくなります。

ハンセン病の患者・回復者、そしてその家族に対する差別をなくするための私どもの訴えをなにとぞご理解いただき、該当箇所の修正または削除を含む必要な措置をとられるようお願いを申し上げます。また、もし作品本編の中にハンセン病に対する他の誤った表現やストーリーがあるようでしたら、それらについても同様な措置をお願い申し上げます。

2012年1月18日

世界保健機関ハンセン病制圧特別大使

日本国政府ハンセン病人権啓発大使

笹川陽平

※ 原文は、英文です。